



●鬼無里小・中学校特別教室棟「鬼らり」が完成しました

本年4月、長野市鬼無里地区に鬼無里小・中学校が開校し、特別教室棟も完成しました。

鬼無里地区には、小学校と中学校が一枚ずつ別々の場所にありましたが、児童数の減少や、平成26年に発生した神城断層地震による鬼無里中学校校舎の被災により、小学校の校舎を一貫校が開校するとともに、昨年からの工事が行われてきた特別教室棟も完成し「森の学び舎 鬼らり（きらり）」と命名されました。



左が「森の学び舎 鬼らり」、右が「鬼無里小・中学校校舎」

工事の概要ですが、木造平屋建て、延べ床面積は約600㎡で、多目的ホール・図書室・クラフトルーム・交流室・事務室・トイレが新たに建設され、その他既存校舎の改修工事も行われました。

工事は昨年7月から開始され、本体工事は長野市の川浦土建株式会社 が請負いました。長野森林組合では、構造・造作などの木工事、木製建具・家具工事、既存校舎の改修工事を施工しました。

木工事では、地元鬼無里産材の杉と唐松を製品材積で約67㎡使用しました。

特別教室棟建設の計画段階から地元の皆様から、「ぜひ鬼無里の木材を使用してほしい」との要望を頂き、設計業者とも打合せを進めました。

木材は、昨年7月から戸隠西岳連峰の麓にある十八部落生産森林組合分収林から伐採搬出し、県内の集材工場や製材所に直送し建設工事の進捗に合わせて準備しました。分収林オーナーとの分収契約満期が、特別教室棟建設工事とちょうど一緒になり、長年育成した木材が、地元の学校の校舎として活用される事は感慨深いものがあります。

本工事では地元の皆様のご理解、ご協力を頂きながら「地域材をふんだんに利用した学校建設が実現しました。」
完成した校舎は、木のぬくもりに溢れ、子供達からも大変好評であります。
新しい木造校舎が鬼無里地区の豊

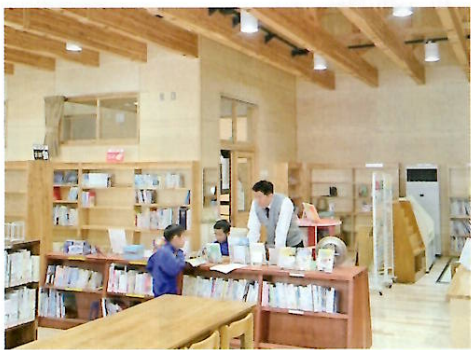


多目的ホール

かな森林資源のアピールにつながればと思います。

当組合では、木材の有効活用策として管内の公共建築物（学校・保育園・公民館・村営住宅など、大規模案件としてはJR長野駅善光寺口の大庇・列柱工事）の木造化・木質化に地域材を活用する事に積極的に取り組んでおります。

現在手掛けている工事もありますが、各地域で計画される公共建築物への木材利用を、組合員の皆様からも行政等へ要望頂くようお願い致します。



↑図書室



伐採地（十八部落生産森林組合 分収林）